

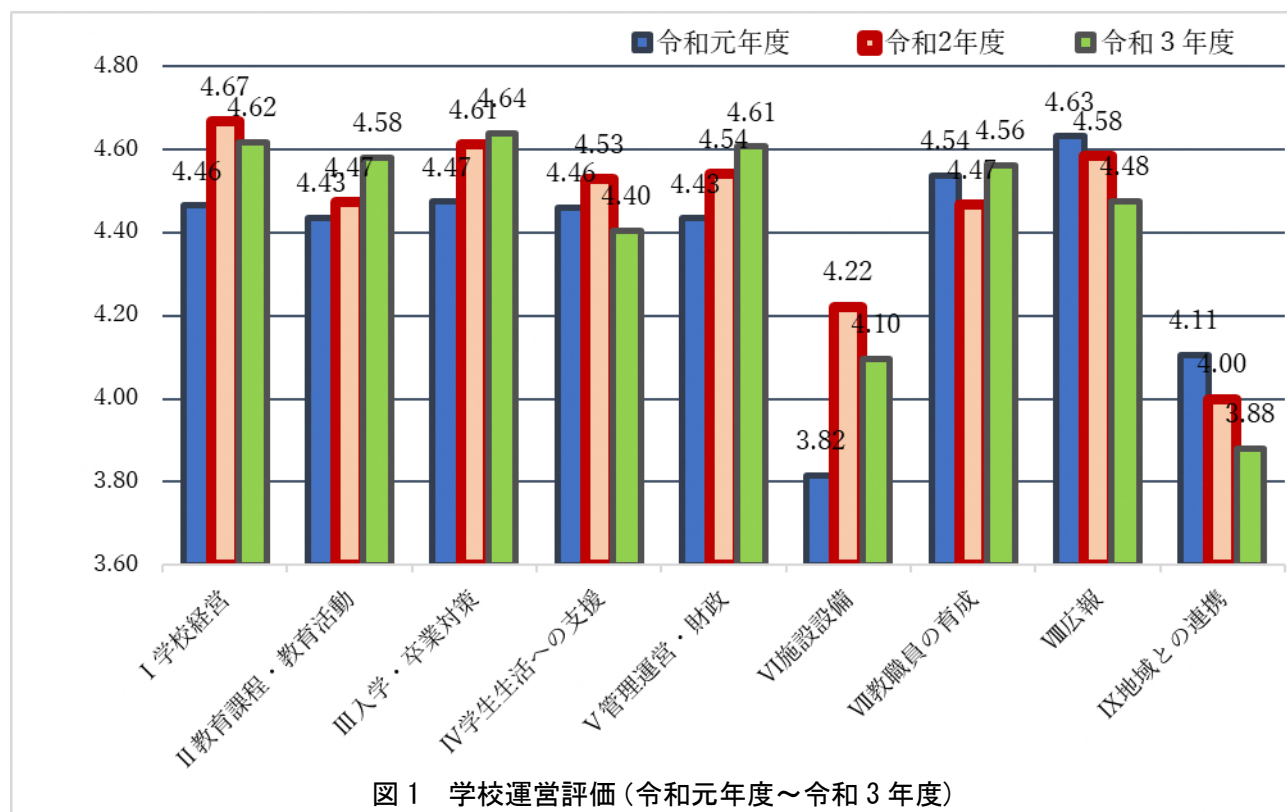
1 教職員による学校運営評価

1) 評価表

評価のカテゴリーは9領域（48項目）です。各項目は、「5；できている～1；できていない」の5段階で評価しました。

2) 全体の結果

I～Ⅸのカテゴリー別平均の推移は図1の通りです。過去2年間とグラフ曲線を比較すると類似した曲線となっています。平均の高い順にみると「Ⅲ入学・卒業対策」（4.64）「Ⅰ学校経営」（4.62）、「Ⅴ管理運営・財政」（4.61）、「Ⅱ教育課程・教育活動」（4.58）、「Ⅶ教職員の育成」（4.56）、「Ⅷ広報」（4.48）、「Ⅳ学生生活への支援」（4.40）、「Ⅵ施設設備」（4.10）の順でした。平均点が最も低いカテゴリーは、「Ⅸ地域との連携」（3.88）でした。



3) 令和4年度改正カリキュラム（教育課程）に向けた準備

令和4年度カリキュラム改正に向けては3年間を費やして準備を進め、令和4年3月に県の承認を受けました。地域の実情から学ぶ、地域に入り込む授業や臨地実習、地域の資源を活用した学びができるよう工夫し、考える力や多職種と連携する力を身につけ、地域で活躍できる看護師の育成をめざします。電子テキストを導入し、シミュレーションモデルを活用するなど、より実践的な授業を行います。

4) 感染症対策の徹底と感染状況による柔軟な対応

新型コロナウイルス感染症対策については、いわき市医療センター感染管理室にご助言いただき、随時感染対策を見直し、感染症予防や拡大防止対策を徹底しました。看護学生として、市民の一人として、毎日の体調及び行動の確認、感染対策に取り組んでいます。

文化祭は校内発表のみでしたが、3密をさけて、3年生の素晴らしい研究発表、1、2年生によるさまざまな企画を楽しむことができました。学校生活の様子は随時フェイスブックで発信しました。

入学式、看護宣誓式、卒業式は規模を縮小して開催し、大切な節目となりました。

感染状況により、自宅でオンラインで授業を受講する、臨地実習を学内で行うなど対応し、1年間学びを継続することができました。

5) 看護師国家試験 11 年間連続全員合格

令和3年度看護師国家試験の合格率は100%で、過去11年間の卒業生が全員合格しています。臨地実習は一部学内で実施した領域もありましたが、ほぼ予定通りに実施でき、患者さんや臨床指導者より多くの学びをいただきました。日々の授業や計画的な低学年からの模擬試験の実施、臨床の実習指導者と連携した実習指導、国家試験に向けての学習支援体制を整える等の支援が、一人ひとりの学生の力となり合格につながっています。

6) 教職員の育成

福島県看護学校協議会が主催する学外短期教育研修に参加しました。竹田看護専門学校(会津若松市)における5S活動を中心とした教育実践をヒントに、本校看護実習室も使いやすくなりました。また、オンライン研修を活用し教育実践能力の向上に努めました。今年度の学会発表等は以下の通りです。

【学会発表】

- (1) 八木美恵子、遠藤由香里：老年看護学実習において実習場面の振り返りにグループ模擬実演を取り入れた効果,第52回(令和3年度)日本看護学会学術集会(看護教育),新潟市(オンライン開催)
- (2) 平澤由希子、迎田美香：精神看護学におけるシミュレーション教育と臨地実習での学び～コミュニケーションにおける学生の学びの検討～,第52回(令和3年度)日本看護学会学術集会(看護教育),新潟市(オンライン開催)

【雑誌投稿】

- (1) 平澤由希子、八木美恵子、遠藤由香里、迎田美香、高木文子：看護教員が抱える臨床実践能力の不安への対処・支援(前編),看護人材育成 18(4) p93~99,日総研出版
- (2) 平澤由希子、八木美恵子、遠藤由香里、迎田美香、高木文子：看護教員が抱える臨床実践能力の不安への対処・支援(後編),看護人材育成 18(5) p68~73,日総研出版

2 学校生活に対する卒業時アンケート

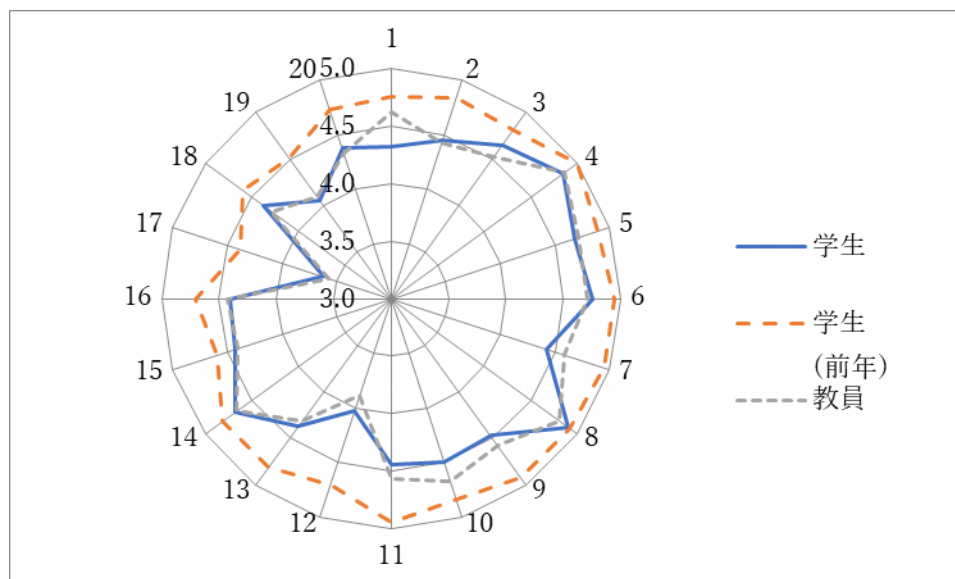


図2 学校生活に関するアンケートー教職員の学校運営評価との対比ー

評価のカテゴリーは6領域（全項目 20 項目）です。20 項目の平均は 4.4（令和元年度 4.7、2 年度 4.8）でした。前年度と比較すると得点は下がっていますが 3 年間の学校生活に対する満足度は 4.0 以上となっており、教育活動や学校生活への支援などは概ね高評価でした。感染症の影響により、文化祭などの行事の規模縮小、固定した場所での黙食など感染対策を行いました。工夫して授業や臨地実習、学校行事に取り組むことができました。学生評価と教員評価はほぼ一致しています。会議システム Zoom は、遠隔授業だけでなく、研修や学生への学習支援にも活用できました。

平均が最も低かった項目は、Ⅵ施設設備の「バリアフリー構造」3.6（前年 4.4）です。校舎裏階段や西階段下の修繕工事が進むなど、学校生活には支障のない状態ですが、バリアフリーの捉え方に個人差があり、エレベーターやスロープなど設備が十分でないことが評価を低くしていると考えられます。次に低かった項目は、Ⅳ学生生活の支援「ボランティアなどの社会活動」4.0（前年 4.7）で、感染症の影響によりほとんどの活動が中止になりました。令和 4 年度からは授業にボランティア活動が含まれる科目もあり、より活発な活動が期待されます。Ⅵ施設設備「学生のために、休息、親睦及び交流等を行うスペース」は 4.1（前年 4.5）でした。令和 3 年 2 月の地震の影響により約 1 年間体育館が使用できず、使用できるスペースが限られ閉塞感を感じることがあり得点が下がったのではないかと考えられます。

＊図 2「学校生活に関するアンケート」の設問内容については下記をご参照下さい。

（Ⅱ～Ⅷは、アンケート項目に対応する学校運営評価のカテゴリーを表す）

Ⅱ 教育課程・教育活動に関する項目

- 1 学生便覧に記載されているシラバス(授業内容)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。
- 2 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善している。
- 3 実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っている。
- 4 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施している。
- 5 実習において、学生が関係したインシデント(ヒヤリ・ハット体験、事故報告)等を把握・分析しているとともに、改善策を講じている。
- 6 授業改善に努める目的で、学生による授業評価(講義・臨地実習)を実施している。
- 7 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。

Ⅲ 入学・卒業対策に関する項目

- 8 国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいる。
- 9 学生の進路決定率を高めるよう努めている。

Ⅳ 学生生活への支援に関する項目

- 10 学生の心身面での健康管理体制が整っている。
- 11 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じている。
- 12 学生がボランティアなどの社会活動へ積極的に参加できるよう努めている。
- 13 教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、支援を得ることにつながっている。

Ⅴ 管理運営・財政に関する項目

- 14 災害など非常時の危機管理体制が整っている。
- 15 学校運営などに学生の意見が反映されている。

Ⅵ 施設設備に関する項目

- 16 校舎を定期的に点検し、適正な整備を行っている。
- 17 校舎はバリアフリーに配慮された構造になっている。
- 18 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。
- 19 学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられている。

Ⅷ 広報に関する項目

- 20 看護師養成所としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。